

第1回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和4年10月31日（月）午後3時00分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 防災対策室
- 3 開 会 午後3時00分
- 4 出席者 保坂武市長 横森貴志教育長
小林啓子職務代理者 金子初男委員
中込正久委員
- 5 欠席者 米山祐希委員
- 6 傍聴人 なし
- 7 事務局 丸山英資総合戦略部長 小澤明教育部長
酒井厚志経営戦略課長 名取藤吾教育総務課長
坂本公彦学校教育課長 金丸徹学校教育指導監
森澤篤史政策戦略係長 久保田浩教育総務係長
早川千賀教育総務係員
- 8 市長あいさつ
- 9 議 題 (1)「未来に向けた地方創生連携事業（学官連携）」について
(2)「甲斐市適応指導教室（オークルーム）」について
- 10 その他
- 11 閉 会 午後4時15分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長 改めまして、こんにちは。お忙しい中、委員の先生方には、出席を賜りまして、誠にありがとうございます。令和4年度の第1回総合教育会議になりまして、本年度も、ご指導のほどよろしく願いいたします。教育委員の皆様には、平素より甲斐市の教育行政の推進、また行政の在り方につきましても、多方面にわたってご尽力、ご協力をくださいます、感謝する次第であります。

この総合教育会議につきましては、教育委員の皆様と私どもが十分に意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有いたしまして、様々な調整・協議を進めていくために実施するものであります。

さて、本日の議題につきましては「未来に向けた地方創生連携事業」と「甲斐市適応指導教室(オークルーム)」についてとなります。「地方創生連携事業」につきましては、航空学園と連携協定を締結いたしましたので、その概要について説明させていただきます。甲斐市適応指導教室「オークルーム」につきましては、不登校児童や生徒の学校復帰を目的として設置いたしました「適応指導教室」や「学外適応指導教室」の状況などについてもご説明させていただきます。

将来を見据え教育振興を進めることは、非常に難しさを伴いますが、大切なのは、教育委員の先生方や学校の先生方と意思疎通を図り、教育課題や進むべき方向性を共有することです。そのためにも、本会議は大変重要なものと認識しておりますので、限られた時間ではございますが、活発な議論をお願い申し上げます。

今後につきましても、「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」のため、ご尽力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議 題

- (1) 「未来に向けた地方創生連携事業(学官連携)」について

市長
事務局
委員

担当からの説明をお願いします。

(資料説明)

今のこの取り組みをお伺いしまして、航空学園というこの地域の力を活用する質の高い指導体制と充実した活動環境を備えるその連携協定により、市内の児童生徒が各専門家による質の高い指導を受け活動できるという機会が得られる、設けられるということは、子どもたちの素質を引き出したり、また、その能力を才能より引き上げる、そういう機会になると思いまして、大変ありがたいことではないかなと思います。願わくばこういった取り組み連携から、教員の働き方改革の中でもあります休日の部活動の地域移行へもつながることを期待しているところです。こういったことに対する費用はどうなっているのでしょうか。

事務局

今回この事業を行なうにあたりまして、航空学園と打ち合わせをしながら進めてきまして、この業務を委託するという形で進めて契約をしました。その中で当然、連携という形になりますので、総事業費の二分の一を市が負担、二分の一を航空学園負担という形で進めております。

委員
事務局
委員

各児童生徒の負担はないということでしょうか。

今年度の事業につきましては、参加者等の負担はありません。

2ページのいろいろな事業を見て、プロが教えてくれるということで、子どもたちの可能性が刺激され、良い事業であると思えました。特に吹奏楽でも指導者が学校の先生の中でもだんだんと減ってきたり、見つけることが大変になっているので、そういう面では学校側もとても助かると思います。サッカーは、ある程度地域でもいますが、吹奏楽となるとなかなか指導者が少ないということで、学校でも苦勞している面があると思いますので、こういった機会にもっと増えると学校も助かるのではないかと思います。あと、ミュージカルやテレビを観て、スターやタレントに憧れる子どももいると思いますので、そういった中で、いろんな子どもの刺激になるのではないのでしょうか。

ただこれで終わりではなくて、例えば先日も教育長と一緒に、竜王小学校の150周年記念式典に出席しましたが、航空学園の子どもたちが太鼓の演奏をしてくれまして、歌や公演を聴いたり子どもが身体で

感じるあの響きはとてもいいなと思いました。

昔ほど活動していないようですが、敷島に太鼓クラブがあります。昔から思っていたのは、地域の力をもらうということはとても良いことですよね。子どもたちが地域に返すこともあれば、またもらえるのではないかと思います。そういう面では、太鼓などを教えてもらって、そのあと教わった子どもが地域に帰って太鼓をたたいて、お年寄りを訪問するとか、地域のお祭りに出ていくとか、そういう行ったり来たりすることがあると、もっと発展すると思います。私がある中学校の校長をしていた時には、学校の先生の得意分野を地域の方に教えるということを行っていました。お返しをすると保護者もいろいろな行事に積極的に関わってくれるようになって親しくもなるので、やはりいろいろ教えてもらったことを地域に返したりしていくような機会も一緒に考えていただくと良いと思います。現在は昔よりもいろんな人の混在があって、まとまりが少なくなっているので、学校で子どもたちが地域のまとまりの核になるようなことを考えていただくと良いのではないかと思います。

委員

話が重複してしまうかもしれませんが、航空学園の持っているダンス部はテーマパークでも演技をしていると聞いていますし、あるいは、先ほども出た吹奏楽など文化や芸術に優れた活動をしている航空学園の質の高い本物を直接見られる、体験できることというのは、子どもたちにとってすごく大きいことなのではないかと思います。

それから先日、バスケット部が県で、男女優勝を果たしましたが、サッカーや野球などのスポーツ活動についても非常に高いレベル持っていますので、直接子どもたちが指導していただくというメリットももちろんあると思いますが、例えば、そういう裏にある指導体制や指導技術について、指導される学校の先生方が触れるという機会にもなれば良いと思います。そういった意味で文化芸術とスポーツ面等々大変有意義な取り組みではないかと思いました。

市長

航空学園との連携では、先日ご協力いただいた KAI SPORTS DAY でも、航空学園の生徒さんが少年野球の子どもたちに指導してくれました。

学年別に子どもたちに教えてくれていた姿を見まして、微笑ましくもあり、子どもたちも元気づいたように感じました。サッカーやいろいろなスポーツを通して、子どもたちがお兄ちゃんたちに指導してもらうことが励みになる。ましてや航空学園ですので、なお良いのではないかと感じたところでございます。ぜひ、これからいろいろなアイデアを出し合って、子どもたちにいろいろな場面で成長してもらえればと期待をしております。

その他、ご意見ございますか。よろしいですか。

一 同

異議なし。

(2)「甲斐市適応指導教室（オークルーム）」について

市 長
事務局
委 員

担当からの説明をお願いします。

(資料説明)

甲斐市ではオークルームの設置も単独事業としてずっと継続していただいておりますし、さらに、甲斐ゼミナールによる学外適応指導教室事業の実施を始めていただいて、不登校の生徒への学習機会、また居場所作り、そういう点で大変有効であると思いますし、子どもたちにとっても選択肢が広がっているの、ありがたいことではないかなと思います。また令和3年度にオークルームへ通級した子どもたちの状況ですが、大変それぞれ有効に機能していると思います。

ただ、オークルームに来たり、甲斐ゼミの教室に行ったりする子どもさんは良いですが、それ以外に非常に多くの不登校の児童生徒がいるように考えます。そうしますと、その辺りの対応というのは、やはり各校での子どもたちの学校が居場所であることができるかというのではないかと思うわけです。甲斐市でも支援員を増やしていただいているところですが、子どもたちに寄り添える人員が不足しているような状況もあると思います。その辺は非常に難しいことですが、なるべく、その子どもに対応できる人が多くなると良いと思います。

それから、私も過去このオークルームに携わらせていただいた者ですが、当時、生徒さんが来ていると、学校側から空き時間の先生が頻

繁にお見えになって、子どもたちとつながりを持つというか、励ましていた姿を見ていました。ただ、学校によっては、そういったことを全然されないところもありまして、もちろん、先生方もお忙しいから、なかなかオークルームの場所まで足を運ぶのも大変ですが、できれば、子どもたちがオークルームや甲斐ゼミへ来ている時にも、学校側から、生徒さんの顔を見に来たり、声かけをしたりするなどしていただけると、なお子どもにとってのより良い状況になると思います。

それから甲斐ゼミナールも現状は試行で無料ということですが、来年度は有償で、これは市が負担することを検討するという事によろしいですね。子どもたちの学習する教育する機会や居場所の選択肢が増えることは大変ありがたいことなので、そのような方向で進めていただければ良いと思います。

委員

不登校の原因は学習とか友人関係とか、あるいは部活動、怠惰、無気力など原因がたくさんあると思いますが、原因の大きなものは何でしょうか。

あと、不登校の子どものうち、オークルームに行っている子どもはだいたい1割ですが、あとの9割の子どもたちは、依然学校に行かず自宅にいるということでしょうか。先ほどの教育委員会でも言いましたが、親の横のつながりを作ってあげる必要があると思います。不登校の原因が自分のせいであると思う親もいるはずですが、例えばシングル家庭では、子どもが家にいると仕事に行っていられない時もあると思います。そうすると収入減につながってしまいますよね。福祉課と一緒に親の横のつながりを作って多少底上げをすれば、少しは減るのではないかと思います。義務教育は権利でもあります。義務ですので、まず原因を減らしていくことに力を入れ、解決していかなければならないと思います。

また、敷島のオークルールはないということですが、敷島の子どもたちは竜王か双葉へ通っているのでしょうか。もし敷島の不登校の子どもが1人や2人であれば、敷島にも作れとは言いませんが、人数が多いのであれば作る必要があるのではないかと思います。逆に少なけ

れば、例えば市内循環バスの乗車券をあげるなど、竜王や双葉へ通う手立てを考えなければならないと思います。学校に行かないのだから、遠かったらオークルームにも行かないですよ。今年是不登校の子どもが12人いますが、やはり行きやすいということも考えていかなければならないと思います。

6ページには、昨年の実績が載っていますが、減っているというのはとても良いことで、やはりオークルームがあるからこそ、学校へ行けるようになったり、卒業して高校へ進学したりと不登校が解決したと思います。

7ページからは、先ほどの航空高校との連携ではないですが「産学官」ですよ。こういう産業の力を借りることも非常に有効な手段ですので、良いことだと思います。ただ、今オークルームが遠くて行くのが嫌という子どもはいるのでしょうか。敷島教室の需要があるのか分かりませんが、まずはオークルームにいかねばなりませんよね。オークルームは強制ではありませんので、その辺のところであとの9割をどうするかということを知恵を絞って考えていかないとやはり救っていけないのではないかと思います。せっかく「産学官」の新しい取り組みが始まっているので、足の確保と保護者への意識の向上について、組織的に考えていく必要があるのではないかと思います。

事務局

まず不登校の要因ではありますが、ここ最近、10年程大きく変わっておりませんが、最上位を圧倒的に占めるのが無気力と不安になります。60%程度は無気力と漠然とした不安、集団に入ることへの不安、たくさんの方がいるところに入ることが何となく怖いというような子どもたちが全体で数が多いです。それに続いて、いわゆる生活リズムの変化や遊びや非行型、また親子の関わり方の中で学校へ行きたくないというような子どもたちが1割2割いるという傾向にあります。

これだけ増えた原因になりますが、よく言われるのはコロナとの関連ではありますが、一概にコロナだけの原因ではないと考えます。子どもたちが変化したというよりも、やはり社会が変化しているのだと思います。例えば、社会的に不登校の子どもたちに対する認知といいますか、学校

に行かないという選択肢が1つの考え方として社会に定着しつつあります。以前であれば、小学校低学年で学校に行きたくないなというところについては、保護者の方も比較的厳しめに行くようにと指導していたことが多かったように思いますが、やはりこうした社会的な考え方の変化の中で、低学年の子どもであっても学校へ行きたくないということについては、その子の考えを尊重するといった考え方も非常に増えていることが1つの大きな傾向ではないかと考えております。

また、いくつかオークルームの在り方等についてのご意見もいただきましたので、ぜひ参考にさせていただきながら、何が子どもたちにとって1番必要で、手を差し伸べることになるのかということについて、今後考えてまいりたいと思います。

委員

先ほど、敷島に教室がないというお話がありましたが、かつては敷島教室もありました。しかし、敷島教室には入級希望の生徒がいないという状況が何年も続いていたように思います。そして理由の1つとしては、そういうところに通うことを世間体的に憚られるため、遠くの他地区であれば通っても良いというような考え方もあったように思います。本来であれば、3地区に教室があった方が良いと思いますが、そんな状況があったことを覚えております。参考までに、知っている範囲でお話しいたしました。

教育長

今、参考としてお話しがございましたけれども、敷島教室がなかったのは、最初は中学生を対象としておりました。敷島中学校には教室に入れない子どもたちが入る教室が別にあります。そこに皆さんが通っていて、オークルームにはなかなか来なかったという形で、受け皿があったためにそちらの方へ入らなかったという理由が1番大きいと思っております。

委員

教室の名前は忘れてしまいましたが、今、教育長おっしゃったように、敷島には確かに、そういう生徒さんたちが行く部屋があったことを聞いておりました。

委員

私はオークルームに関わらせていただいている関係もありまして、発言の中身が両方にまたがってしまうようなことがあるかもしれませんが、ご容赦ください。

不登校の対応として、やはり基本的には、まず魅力ある学校づくり、授業づくり、子供たちの人間関係づくりがまず大前提であると思います。ただ、いろんなその子どもたちの状況の中で、どうしても学校に足が向かない、あるいはほとんどの中学校が行っている自学教室の別室登校に取り組んでも、まだ学校自体にいろんな事情の中で行けない子どもが、オークルームを居場所として使っていただいていると思っています。基本的に学校に行けない子どもは全員オークルームを受けてくれればいいのですが、なかなか現実はいかにないところがあって、ただこれについては、4月に、私の方で16校全部回らせていただいて校長先生に各学校の不登校の子どもたちの実態なりを聞かせてもらい、そういった連携を取らしていただきながら対応させてもらっています。

もう一つ、先ほどから出ています、甲斐ゼミの今後のニーズについてですが、今も月曜日のこの時間、子どもたちが3人通級しておりますが、竜王教室は公民館のため月曜日が閉館になっていますから、そういった意味で一つニーズがあります。それから、特に中学校3年生は受験を控えていますので、そういうノウハウを持っている甲斐ゼミのニーズもあります。

それからもう一つは、敷島の小中学校からも通級している子どもたちがいますが、それは保護者の送り迎えによるものです。ただ、敷島葦崎線のバスの路線を使っての通級について検討されたこともあります。甲斐ゼミ教室については、敷島教室というご提案ですが、これについては、甲斐ゼミの双葉教室は2教室あります。響が丘教室と今度新しく双葉教室ができていますが、それは個別指導をうたっております。そういう意味でも、敷島に教室がないということから、敷島教室が適していると思います。

もう一つのニーズは、オークルームは午前中ですので、生活リズムの崩れている子どもたち、例えば学校に行く時間には起きられないけれど、少し時間が経ってくると、来られるという子どももいますので、そういった意味で午後の甲斐ゼミ教室というニーズには、応えることができるのかなと思います。

もう一つ、市内在住で公立私立の市外の学校へ通っている子どもたちが最近増えています。学力があるけれども、何らかの事情で学校で対応ができないという子どもたちのニーズは、甲斐ゼミのようなところはノウハウを持っているので、そういった意味合いでも別の形で一つニーズがあるのではないかと感じています。

これからもできるだけ学校との連携をというお話しがありましたが、オークルームでは実は、例えば中学生の中間期末テストについて、学校では受けられないけれども、オークルームでは受けられるという子どもに対しては、学校と連携を取らせていただきながら、オークルームで受けてもらったりもしています。進路指導も含めて、特に中学校3年生は大事なところですので、学校と連携を取らせてもらいながら進めさせていただいています。今後ともまたそういう意味で、甲斐ゼミ教室も含めていろんな連携の中で、不登校の子どもたちに対応していければと思っています。

市 長

先生方には、それぞれの立場で、また気がついたことを教育委員会へご助言いただければと思います。私たちは素人なので先生方に期待をしているところです。

最後の方の「有償」というのは、個人が出していると思ってしまうので、(公費)と入れた方が良くと思います。

コロナの影響で学校を頻繁に休むことがあったので、それが影響してそのまま不登校になってしまったのかなと思えたりして気にしているところです。全国的に山梨県は10位くらいのところだということですが、かつては山梨県甲斐市が1番多かったということが全国的にも有名でした。ここ十数年経ってこのような状況になったかなと、不登校について心配をしておりますが、私ども行政の立場では非常に苦慮しているところではございます。これからもいろいろとお気づきの点を教育委員会へお申しつけくださって、一緒に問題解決をして行けたらと思っています。

委 員

今話を聞いて、無気力という子どもが6割ということですが、高校進学を控えた中学3年生は学力がないといけませんので、そうすると塾で

もいってみようという気持ちになり、求めてくれる子どもがいることが救いだと思います。中学3年生や中学2年生あたりでは先を考えて指導してもらって、塾という選択肢もあるということ伝えていただければ、学習から離れてしまう子どもは少なくなるような気がしますよね。

無気力の子どもたちをどうするのかと言われると、私たちもやはり家庭と一緒に保護者への啓発のようなことしかないと思います。学校は来ないと指導できないし、行って話すとしても相手が無気力だと通じないですね。

私たちが学級を持っている頃は不登校の子どもはいませんでした。どんなにひどい家庭でも子どもは学校に来ました。私が管理職になって、学校へ来ない子どもが出てきて自学教室が作られました。カウンセラーがいるときに来たり、保健室へ登校したりなど、どの学校でも今やっていますね。

先ほど、オークルームに先生が来るという話がありましたが、担任の先生が抜けてくるのは、小学校だと大変だと思います。中学校は教科担任なので空き時間が多少長くなりますが、小学校は1日中ついていなければならないので、途中で抜けることは難しいのではないのでしょうか。これはもう仕方がないと思いますが、やはり学習してみたいとか学習しなければ困るという気持ちを持っている子どもについては、オークルームは有利になりますよね。将来の見通しもあると思います。

ただ無気力の子や生活リズムの乱れについては、やはり保護者の改革しかないですね。今の保護者はどう思っているのでしょうか。私にも子どもがいますが、子どもが学校に行かないことを親が許すということは、昔は考えられなかったと思います。でも、今は子どもが学校へ行かないことについて、それは仕方がないと容認してしまう親がいることも現実です。親たちが意識改革をしていかないといけない時期がきているかもしれません。自分の生きる武器は知識です。それがないとその子の将来はどうなってしまふのだろうととても心配になります。

大きな話になりますが、今まで日本を作ってきたのは教育の力だと思います。明治の時に日本が諸外国から植民地にされないというのは、あ

の頃日本は江戸時代でも識字率は世界一でした。例えば、スペインが攻めてくるその前、鉄砲伝来の後、日本を植民地にしようと思っても、改良された火縄銃の数は日本が一番持っていました。そういうのはみんな教育でしょう。

幼稚園から小学校へ、小学校から中学校へ入る学校への不安というのは友達と学力だと思います。いい学校を作るということは大事だと思います。

市長 皆様には貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

この不登校の割合ですが、ひとり親の家庭はどのくらいなのでしょう
か。

事務局 具体的な数字が手元にありませんので、改めて報告させていただきます。

市長 引き続き、委員の先生方からご意見をいただいたりして、私たちも努力をしていきたいと思えます。近くには農林高校もあります。農林高校の子どもたちがワインを作っていたり、また、女の子が造園システムに半分以上いるそうです。地下足袋を履いて、一緒に石を敷いたりして、専門家の指導で東屋を作っているところを見ました。昔の地下足袋というのは履かないですが、鞆がたくさんある足袋を女の子は喜んで履くそうです。そういう場面を見たりして来ました。近くにはそういう農林高校もありますので、そういう意味では、多くの子どもがいろいろ学んで成長していただけたらと思えます。

皆さんから貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

その他、ご意見ご質問ございますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

○その他

事務局 今後の予定について、教育委員会から連絡させていただきます。第2回総合教育会議につきましては、昨年度は新型コロナの感染拡大を防ぐため、書面での開催とさせていただきましたが、例年1月下旬から2月の上旬に開催をさせていただいております。本年度につきましても、年

明けの同じ時期に開催を予定しております。決まり次第、ご通知させていただきますので、ご出席のほど、よろしく願いいたします。

○閉 会

事務局

閉会を宣する。

閉会時間 午後4時15分